

高石市教育委員会定例会会議録

(令和6年10月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	令和6年10月9日 午後5時45分
閉 会	令和6年10月9日 午後6時25分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 山 本 圭 作 委 員 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一 委 員 : 西 村 朋 恵
事務局職員	教 育 部 長 : 石 坂 秀 樹 教育部次長兼 教 育 総 務 課 長 : 神志那 隆 教育部こども未来室長 : 家 村 美 雪 学 校 教 育 課 長 : 山 崎 陽 子 社 会 教 育 課 長 : 道 井 里 沙 教育総務課長代理 : 水 谷 亘 社会教育課参事 兼 課 長 代 理 : 船 富 学 学校教育課 教育研究センター所長 : 黒 井 将 典 こ ども 家 庭 課 長 : 乾 直 史 子 育 て 支 援 課 長 : 米 山 秀 公

議題及び議事の要旨及び議決事項

・ 議案第1号 高石市教育委員会表彰（追加）について

次長兼 教育総務課長	議案第1号「高石市教育委員会表彰（追加）について」説明します。 本議案は、高石市教育委員会表彰規則第3条第3号及び第4条第3号の規定に基づき、先に開催されました教育委員会表彰審査会において、追加承認された2ページ記載の候補者を表彰するものです。
採決	可決

・ 議案第2号 令和6年度全国学力・学習状況調査結果公表について

学校教育課長	議案第2号「令和6年度全国学力・学習状況調査結果公表について」説明します。 本議案は、今年4月に実施しました全国学力・学習状況調査についての本市小・中学校の調査結果の公表について、承認いただくものです。 「学力調査の結果概要」として、本市小・中学校における各教科の
--------	--

	学力に関する分析の部分と質問紙調査の結果概要として、質問紙調査の分析からの学習状況に関する部分、また、その両方の分析から見えてきた課題とそれに対する高石市教育委員会及び学校の取組み等について、公表するものです。 学力調査は、小学校6年生では、国語・算数、中学校3年生では、国語・数学が実施されました。 質問紙調査は、小学校6年生と中学校3年生の児童生徒の学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する内容についての質問が出されました。 結果概要については、課長代理より説明します。
学校教育課長代理	令和6年度全国学力・学習状況調査の結果概要について説明します。 別冊資料「令和6年度全国学力・学習状況調査」は、令和6年4月18日に市内公立小中学校の小学校6年生と中学校3年生で実施した調査の結果を高石市全体で集約し、まとめたものです。 1ページの学力調査の結果概要ですが、今年度の調査教科は、小学校では、国語・算数、中学校では、国語・数学の調査がありました。中段やや下の方の「平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について」は、小学校では、国語は、大阪府平均を上回り、全国平均と同等、算数では、大阪府、全国平均と同等の結果となっています。 中学校は、国語、数学いずれも大阪府平均、全国平均を下回る結果となっています。 それでは、校種、教科ごとにもう少し詳しく説明します。 2ページには、小学校の学力調査の結果を示しています。上段には、各教科の平均正答率と無解答率の表を記載しています。左から高石市、大阪府、全国の結果、高石市と府の結果と比べた差を「対府差」、全国の結果と比べた差を「対国差」として、プラスマイナスの表記で示しています。 2段目には、各教科における対全国比の経年比較を折れ線で表したグラフを記載しています。平成29年から平成30年度までは、主に知識を扱うA区分と主に活用を扱うB区分を別々に表記していましたが、平成31年度以降は、この区分がなくなったため、1本の折れ線で示しています。 3段目の右側の表は、各教科の領域別平均正答率を示したもので、一番左に各領域を記載しており、「市」の欄は、高石市の平均正答率、「府」・「国」の欄は、それぞれの平均正答率、「府比」・「国比」の欄には、領域ごとの大阪府及び全国の平均正答率を100%としたときの高石市の平均正答率の割合を示したものとなっています。 小学校の各教科の状況について説明します。 国語については、平均正答率が全国より0.7ポイント下回っており、領域では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に課題が見られました。対全国比の経年比較は、升降傾向がみられ、令和6年度の結果は、99.3%で一昨年度と比較しますと0.5ポイント程度上昇が見られます。 算数については、平均正答率が全国を0.4ポイント下回っており、領域では、特に「変化と関係」の領域に課題が見られました。対全国比の経年比較は、年度により上下が見られ、令和6年度の結果は99.6%で、昨年度と比較しますと1.9ポイント程度下降しました。 続いて、3ページには、中学校の学力調査の結果を示しています。

国語については、平均正答率が全国より 4.1% 下回っており、領域では、「話すこと・聞くこと」に課題が見られました。対全国比の経年比較は、平成 31 年度より上降傾向となっておりましたが、令和 6 年度の結果は、95.9% で一昨年度の結果より、2.9 ポイント程度下回る結果となっています。

数学については、平均正答率が全国より 5.5% 下回っており、領域では、「データの活用」の領域に課題が見られました。対全国比の経年比較では、年度により上下が見られ、令和 6 年度の結果は、94.5% で、昨年度の結果より、4.2 ポイント程度下回る結果となっています。

小・中学校ともに、各教科の問題の中で、特に課題のあった問題を 12 ページから 15 ページに取り上げています。それぞれの問題において、どのような力が求められているのか、そこから、本市の児童生徒にどのような課題がみられるのかを考察しています。

続いて、4 ページの「質問紙調査の結果概要」ですが、今年度の調査でも、教科に関する調査と同様に学校生活や授業、生活習慣等に関する質問紙調査が実施されました。このページでは、高石市の子どもたちの学習状況、生活習慣の特徴や課題が見えるところを抜き出し、まとめています。

⑨から⑫の項目については、小中学校とも前年度より向上しています。⑩⑪の項目については、小中学校とも全国を上回る改善がみられています。②③⑥の項目では、小学校では、全国を上回りましたが、中学校では、課題が見られます。④の項目については、全国より下回るものの昨年度より改善が見られます。⑤の項目については、中学校では、昨年度より改善されましたが、小学校では、課題が見られました。引き続き、「いじめは絶対に許されない」という意識が向上するような取組みを進めてまいります。

また、小学校における①「朝食を毎日食べている」の項目、小中学校における⑦「家庭学習の時間が 30 分以下」の項目について、課題が見られました。課題解決に向けて引き続き、家庭との連携を図りながら継続して啓発を行っていきます。

続いて、5 ページの「調査結果から」は、「教科に関する調査、質問紙調査」全体をまとめて分析・考察したものです。

学習面では、「基礎的な知識・技能の定着と活用」「情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用する力」「情報を整理活用し、自らの知識や経験と結び付け考えを深め、根拠をもとに適切に表現する力」の三つを特に重点を置く学習活動として取組みを進めていきます。

先ほど、質問紙調査の結果概要で説明しましたように「朝食を毎日食べている」については、中学校では全国を上回る値になりましたが、小学校では、値が年々低くなっています。

また、「家庭学習の時間」については、小中ともに年々短くなっており、この課題は、スマートフォンの所持率や使い方にも関係していることと考えられます。そこで、健康な生活習慣、家庭学習、情報モラル教育に関する取組みを家庭への協力とお願いということで、10 ページ、11 ページに家庭での過ごし方等参考してもらえる資料及びワークシートを掲載しています。

次に、6 ページの「教育委員会による学校への指導助言事項」においては、各校がこのページの①～⑤に記載している取組みを推進していきけるよう指導主事が重点的に指導助言を行ってまいります。

	7 ページ・8 ページの「学校での取組み」においては、今年度の調査結果を受けて、各小中学校が自校の結果を分析しています。5 ページの「調査結果から」にまとめた課題、「学力向上の取組み」をもとに各校それぞれの課題に正対し、課題解決に向けた具体的な取組みについて、全教職員が徹底して取り組んでいくことを記載しています。 続いて、9 ページの「家庭・地域にご協力いただきたいこと」において、質問紙調査の結果より、「健康な生活習慣」や「家庭での時間の使い方」に課題があることから家庭における「朝食を取ること」「家庭学習の充実」「スマートフォン等の使い方改善」「読書機会の設定」を図るため、各家庭への啓発内容、協力いただきたいことについて記載しています。 10 ページには、参考資料として、健康な生活が送れるよう「三つの朝運動」、家庭学習を行うヒントとなるポイント等についてまとめたリーフレット「家庭での過ごし方について」、大阪府教育委員会から配信されている「情報活用能力ステップシート」となっています。 また、児童生徒 1 人に 1 台配布されたタブレット端末に入っている「ドリルパーク」等の紹介をしています。 11 ページには、教育委員会から配付しております「家庭でのタブレット端末の使い方」「ケータイ・スマホの使い方」のリーフレットを掲載し、紹介しています。 今後も学力向上に関する方策だけでなく、子どもたちの『生きる力』の育成をめざして各家庭にも協力をいただきながら、教育委員会としても取り組んでいきたいと考えています。 以上、令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果概要についての説明を終わります。
吉村文一委員	2 ページの小学校の各教科の状況のところですが、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」は、全国や府よりも高いけれども、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、全国よりも低いという結果が出ています。これを見ますと、タブレット端末の使い方の特徴で上の 2 つは、効果が出ていると思います。逆に、「読み・書き・話す」というのは、実際に書く読むというところが重要になってきます。アナログの部分のいいところ、タブレットのいいところを使い分けて、メリハリ付けて、何がなんでもタブレットというのではないと思います。中学校も同じですが、そういったところを今後、煮詰めていけばさらにいいのかなと思いました。
学校教育課長	私どもも何がなんでもタブレットというのではないと思っています。令和 2 年度から配備され、5 年目となります。「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」については、タブレットの活用には効果があったと実感しています。ただ、委員ご指摘のあった「読む・書く」というところは、私どもも学校もノート等に記載することを大事にしたいと思っています。 令和 3 年度から「よみよむワークシート」という読売新聞社の新聞記事を使って読解を高めていく取組みを進めています。 今後もタブレットとアナログ部分をより深く研究していきたいと考えています。
山本教育長	タブレットで授業をするのではなく、タブレットも活用する授業、タブレットを活用した方が子どもにとって効果的であれば活用し、無理に使うことはないと思います。今後、そのあたりを研究していったらいいと思います。
西村陽子委員	質問紙調査で、「家庭学習の時間が 30 分以下」というのが、特に

	中学生の割合が増えてきています。このあたりの対策は、どのように考えていますか。
学校教育課長	家庭学習の弱さは、本市の大きな課題のひとつです。そこで、小中学校では、家庭学習でのデジタルドリル、調べ学習とかをやっていくことに力を入れています。特に、家庭の協力は、多分に必要となってきましたので、保護者懇談会やPTA総会等において、家庭、学校と連携協力して行っています。
佐野慶子委員	今日、教育委員の学校訪問があり、小学校を見学させていただきましたが、先生方、頑張っているのを見て、安心して帰ってきました。 また、先ほどは、小中学校の校長先生から学校の取り組み等のプレゼンを聞き、各校がいろいろ工夫して頑張っていたに安堵しています。ただ、学力学習状況調査結果で「家庭でのタブレット端末の使い方」等、紹介いただけていますが、各家庭がこれをどのくらい活用しているのか見えてこないもので、その辺の啓発の仕方は、難しいのかなと思っています。いろんな機会を見つけて、まずはやっぱり授業の中でわかる授業をして、子どもの身に学力の定着というのが望ましいと思いますので、先生方に力をつけていただいて、子どもに力をつけてほしいと願っています。
学校教育課長	私どもも、この毎年の結果に一喜一憂してはいけないと思いつつ、非常に重く受け止めています。啓発の仕方を考えていかなければいけないことは、その通りです。ホームページ等で啓発は行っていますが、保護者と繋がっている大きな部分は学校ですので、学校でまさに連携していかなければならないと思っています。 7ページ、8ページの「学校での取り組み」で学校別に記載させていただいておりますが、委員がいわれたように授業で子どもたちに力をつけるというところが、ぶれてはいけないという事を先日の校長会でも話をさせていただきました。 大阪府でも対応いただけていますが、もう一度、この結果を受けて原点を見つめ直し、市民の方々にも見ていただき、学校での取り組みをしっかりとやっていくよう指示しています。 指導主事一人ひとりが学校に直接赴き、学校と連携しながら、子どもたちの学力向上の取り組みをより一層推進していかなければならないと考えています。
教育研究センター所長	教育研究センターでは、法定研修で初任者や10年目の方に授業を見せてもらい、指導助言をさせていただいてますが、初任者や2年目の方は、授業の中でどんな力をつけるのか、先生自身がまずしっかりと自覚し、それを子どもたちにわかりやすい言葉で伝えた上で、一緒に学ぶようなところにこだわって話をさせていただいております。 また、先輩の先生方は、ミドルリーダーとして、ご自身が学校に対してもしくは子どもたちに対して、どんなところにこだわって、今、頑張っているのかについて、後輩に見えるような形で授業をしてほしいという指導もさせていただいています。その辺りも含めて学校の方にも繋がって行ければと考えています。
佐野慶子委員	無回答率ですが、従前は高かったと思いますが、低くなっていますね。
学校教育課長	平成19年度から学力調査を行っていますが、以前は、無回答率が非常に高かったです。平成26年頃から、校長先生方などがとにかくやろうというところから始めて、年々無回答率が低くなり、今年度は、特に小学校が低くなっています。中学校は、若干高いですが、声がけ等を行っています。

山本教育長	6 ページの⑤の「P T A、学校評議員会等に調査を公表することから、家庭・地域の協力を促す」というのは、学校の生データを提供するというイメージですか。各小学校の子どものデータは、役員さんに見ていただくのですか。
学校教育課長	学校だよりに掲載して見ていただきます。
採決	可決

・議案第 3 号 高石市教育委員会スポーツ施設情報システム利用に関する規則の一部を改正する規則の制定について

社会教育課長	議案第 3 号「高石市教育委員会スポーツ施設情報システム利用に関する規則の一部を改正する規則の制定について」説明します。 本議案は、本来であれば、令和 6 年 2 月に高師浜総合運動施設に新たに 3 x 3 バスケットボール場を設置した際に、スポーツ施設情報システム、いわゆるオーパスシステムで 3 x 3 バスケットボール場の予約が出来るよう本規則を改正すべきところ、改正漏れがあったため、この度、改正を行うものです。 なお、施行期日は、公布の日からとしています。
採決	可決

・報告第 1 号 教育委員会の後援等に関する報告について

次長兼 教育総務課長	本報告は、高石市教育委員会の後援等に関する規程第 2 条第 1 項の規定に基づき処理したものについて、同条第 2 項の規定により、8 ページ、9 ページ記載の教育総務課 1 件、社会教育課 12 件の計 13 件の報告をするものです。
山本教育長	報告があったものとして処理します。

・報告第 2 号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各所属長	令和 6 年 9 月 2 日から令和 6 年 10 月 8 日までの当委員会関係諸行事について説明。
山本教育長	報告があったものとして処理します。